

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070703022
法人名	医療法人 権頭クリニック
事業所名	グループホームもやい
所在地	福岡県北九州市八幡西区竹末1丁目10-15
自己評価作成日	平成31年1月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成31年1月16日	評価結果確定日	平成31年4月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHもやいの取り組みとして日頃から入居者の方を散歩や買い物等におつれし外出支援を行っています。ただもやいの周辺を散歩するのではなく勾配の坂や階段を登って頂きしっかりした足腰で歩かれています。今まででしたら雨、雪、夜になったら園内で過ごすという固定観念がありましたが天候に関係なく積極的に外出して頂いています。日頃から入居者の方とスタッフが笑顔でお互いに協力して過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して15年目を迎えようとする「グループホーム もやい」は、公園に隣接する地の利を生かし、季節の変化を感じながら、日常的な外出支援が行われている。また、散歩にとどまらず、地域の方々とソフトバレーに参加したり、あえて坂道を上り、高台からの景色と充実感を楽しむ方、職員と共に関連事業所での作業を役割とする方等、社会参加や役割づくりも含めて、個別に応じた支援が積極的に行われている。古き良き時代が演出された、どこか懐かしい雰囲気のある居住空間の中では、調理や食事、おやつ作り等、入居者・職員の賑やかな声が飛び交い、日々の暮らしが伝わってくる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1度のミーティングにて「その人らしくあるがために」を元に入居者の方の支援を行っていく旨を伝えて共有している。	全事業所が集まる月1回の管理者会議の際には、法人理事長から、直接、法人の理念についての方向性や内容の説明があり、法人の理念が周知徹底できるように取り組まれている。また事業所内の月1回のミーティングの際にも理念の唱和があり、職員にも周知されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	もやい周辺を散歩し入居者の方と地域の方と立ち話しを行っている。その会話の中で地域のソフトバレーの練習に参加して交流している。また、年末の防犯パトロールに積極的に参加している。	近隣の公園や事業所周辺の散歩に、週何度も行っており、近所の方々との交流も生まれている。入居者、職員と共に毎週地域のソフトバレーに参加している。利用者自らが、外に出ることや地域の人々との交流を望んでおり、その意思が少しでも尊重されるように取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	もやいの系列事業所が行っている認知症行方不明者模擬訓練に地域の方と入居者の方が参加し一緒に協力して行方不明者役の方を捜索し認知症の方に対する理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては市民センター館長、民生委員、地域包括支援センター、郵便局長、自治会長、草の根ネットワーク理事長等に参加して頂き色々な情報を頂きサービス向上に努めている。	運営推進会議には、入居者、事業所職員だけではなく、関連事業所の職員や、市民センター館長、地域包括支援センター職員、小学校校長、自治区会長、町内会長等多くの人に参加されている。事業所内の報告だけではなく、地域の行事や現状等の情報交換が十分にされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議から竹末市民センター館長より竹末市民センター祭りにおいてパウンドケーキ販売依頼がありお互いに協力し販売させて頂いた。徐々に協力関係を築いている。	運営推進会議に出席している市民センター館長より様々な情報提供があり、職員はそれをもとに市町村や市民センターの行事に参加、市町村担当者と交流し、連携を深めている。毎月来訪されるケースワーカーとも密に連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回のミーティングにて身体拘束・廃止防止委員会を立ち上げ毎月担当を決め資料を作成し発表を行い各スタッフ理解を深めている。	毎月全体会議時に身体拘束廃止に関する委員会が開催され、拘束に対する正しい理解と拘束0(ゼロ)の実現に向けて全職員で取り組んでいる。また研修も実施しており、全職員が研修に関わることで、職員全員がより一層、身体拘束廃止に向けて理解が出来る様になっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて高齢者虐待防止法を含む虐待防止に関する内部研修を行い各スタッフで日頃のケアが決して虐待にならない様に意識している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議参加されている認知症草の根ネットワークの理事長より成年後見制度についての勉強会を設けたり内部研修を行い理解を深めている。	成年後見制度、日常生活自立支援事業を利用している入居者は、現在いない。制度について十分理解できるように、また、必要時は円滑に支援ができる様に、草の根ネットワークの理事長による勉強会や外部研修に積極的に参加している。また内部研修も実施している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約するにあたり重要事項説明書を入居者様、ご家族様に一つ一つ説明している。不明な点があれば安心して入居して頂ける様に再度説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が面会時に要望をお聞きしている。例えばもやいでの大掃除やご家族様同士の交流図りたいとの要望があり早速、年末大掃除を兼ねたクリスマス会にてご家族様同士の交流を図った。	利用者と家族、職員の交流やグループホームでの取り組み状況を家族に知ってもらうために、様々な行事を企画し実施している。行事がある際は、事業所内の報告だけではなく、家族から忌憚ない要望や意見が出されている。また、頻繁にブログを更新して、事業所の取り組みを外部に発信している。また「もやい便り」を作成し、家族に送付している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1階のミーティングにて出来るだけ職員の意見や提案等言える環境作りに努めている。また、管理者と職員で定期的な面談を行い要望等が反映出来る様に努めている。	月1回、業務後に職員ミーティングが実施され、その際に、運営に関して職員の意見・要望が出され活発な意見交換がされている。重要な案件は、代表者、管理者も含めて検討され、職員に向け、フィードバックされている。日常業務でも、いろいろな意見交換、相談がされており、職員の意見が反映されるように取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は全職員対象の職員アンケートの実施により個々の職員に対して把握に努め、面談希望職員に対しては定期的な面談を実施している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたってもやいで働く意欲がある方は積極的に採用している。系列グループの施設には保育園が設置され育休もとりやすく働きやすい環境が整っている。	性別や年齢に関係なく、職員採用が実施されており、事業所で働きたい意欲があるか否かが重視されている。関連法人施設に保育園があり、子育て世代の職員でも働きやすい環境が整備されている。また子連れ出勤も可能である。職員がマッサージを無料で受けられたり、関連法人には、FM放送局のサテライトがあり、情報発信の機会があったり等、働きやすい環境づくりに取組んでいる。職員のスキルアップについても、費用や勤務に関するサポートがなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的な内部研修やミーティングにて人権教育、啓発活動に努めている。	「その人らしくあるがままに」は入居者の人権の尊重をベースにした理念である。この理念をもとにミーティング時等の内部研修時に人権に関する研修を実施している。また外部研修にも参加をしている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回のペースで内部研修を行ったり、職員各々に応じた外部研修に積極的に参加する事により働きながらレベルアップに努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行われている医師会主催の多職種連携研修の中で他のグループホームとの情報交換等を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の方から一番声が上がっている外に出たいとの要望のお答えしもやい周辺を散歩や買い物おつれし気分転換を図り関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が面会や電話連絡にて何でも話して頂ける環境作りに努めている。例えばご家族様からのご要望でご家族様同士の交流を図りたいとの事でクリスマス会を行い交流して頂いた。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居するにあたり本人様とご家族様の要望を見極めている。例えば気軽に散歩へ行きたいとの事で朝のゴミ捨てを兼ねて散歩へおつれしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬いつつ毎日の掃除をお互いに役割分担して行ったり、煮物の味付けのアドバイスを頂いたりして関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と面会や電話連絡にて随時近況報告を行っている。例えば、最近食事をする際むせが見られる方には主治医のアドバイスの元に食事形態について本人様、ご家族様、職員が話し合いを行い共に本人を支えて行く関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方が気軽に面会に来て頂ける環境に努めている。また、住み慣れた地域の祭りに行き行って頂き昔を思い出して頂いた。	家族・知人の面会が多い。入居前に住んでいた自宅周辺の催事にお連れして、催事に参加出来るように外出支援したり、馴染みの祭りに参加したり、お茶を趣味としていた方にお茶を入れて頂いたり等、今までの関係が継続出来るような支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方が孤立しない様に皆様と一緒に食事の食材を分担して包丁で切ったりもやしのひげとりをして頂き支え合える様な支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の方が施設において看取りをさせて頂き退去され亡くなられて1週忌に施設に寄られて昔の思い出話をされたり、退去されたご家族様をクリスマス会にお呼びして関係性を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の日頃からの会話から要望等を拾っている。買い物に行きたいと言われる方にはすぐにお店におつれしお好きな物を買って頂いている。職員は臨機応変に対応出来る様に努めている。	入居時のアセスメント時やその後のカンファレンス時、入居者個々との日常の会話、交流等を通じて、職員は入居者本人の思いや意向をくみ取り、それに合致した支援を行おうと努力している。その為の情報共有、検討を常に心がけている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の方のなげない会話やご家族様が面会に来られた際に情報収集に努め、入居者の方に対する新しい情報は周知ノートに記載し全職員で情報共有している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方を介護記録に記載しいつもと状態が違う場合は記載し、各々の日頃からしたい事等を見極めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を行い本人様、ご家族様、職員がこれからの要望等を話し合ったり主治医の意見をとりいれ現状に合った介護計画になるように取り組んでいる。	入居者本人、家族も参加をされての定期的なサービス担当者会議が開催されている。主治医や看護師の意見も反映し職員間で十分検討し、介護計画を修正、作成している。日々の介護記録をもとに、カンファレンスやモニタリングを定期的実施し、現状に即した介護計画となるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に各入居者の方の様子やケアに対する記録を記入さらに大切な情報は周知のノートに記載し職員で情報共有している。また、月に1度の介護計画のモニタリングを行い見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩に行かれない方には雨の日でも近くの穴生ドームへおつれし散歩したり近くの坂道を登られ足腰の鍛錬にも努められている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	龍王神社で毎年1回行われているしめ縄作りに参加したり地域の方と一緒に年末防犯パトロールに参加され地域との繋がりが大事にして支援を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体となる医療法人のかかりつけ医と連携を行い本人及びご家族様の要望等を汲み取り適切な医療を受けれるように支援している。	本人、家族了承のもと、かかりつけ医は母体である医療機関の医師が担当している。訪問診療、健康管理、急変時への対応等に円滑に対応している。他科受診については、入居者本人及び家族の希望をお聞きし、かかりつけ医と連携をして他科を紹介してもらって円滑に受診が出来る様に支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の方が特変が見られればクリニックの看護師に報告し看護師からかかりつけ医に繋げる事により適切な受診や看護を受けれる様に支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	仮に入居者の方が入院された場合は1日でも施設に戻って頂ける様に定期的に面会に行き看護師やMSWからいつ頃退院が出来るのか情報収集を行うとともに関係づくりを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けたアンケートを3ヶ月に1回行いご家族様の意向を確認させて頂いている。嚥下状態等のかかりつけ医が見ながら早い段階からご家族様とかかりつけ医が話し合いを行い方針を共有している。また、地域ケア会議にて看取りについての勉強会に地域の方も参加されている。	入居時より、重度化対応指針の文書を示しながら本人・家族と話し合い対応を検討している。本人・家族の意向は3か月に1回の意向確認書で確認している。重度化、ターミナルケアの経験豊富な職員も多く、ケアの質を高めながら対応を重ねている。地域ケア会議では当事業所が中心になって重度化対応の研修会も行われ、好評を得ている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の方の急変時や事故発生時のマニュアルを職員で共有している。また、ミーティングにて急変時等のロールペーイングを行い実践力を身につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行っている。消防署のもと、入居者の方と職員が協力して訓練を行い課題を洗い出し次に繋げている。近隣の地域の方や関連法人との応援体制も整えている。	運営推進会議でも災害対策の勉強会を開催している。年2回、昼と夜を想定しての避難訓練を消防署立ち合いのもと実施している。訓練には関連の他事業所や地域の方々からの応援も得られている。災害マニュアルが整備されており、備蓄品も備えられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い言葉遣いに対しては重々気を付ける様に職員へ周知徹底している。また、内部研修にてプライバシー保護や倫理及び法定遵守に関する研修を実施している。	入居者を尊重し敬う気持ちから職員全員、呼称や言葉遣いには、十分配慮している。入居者ひとり一人の生活リズムや生活パターンをできるだけ尊重するように対応している。法令遵守、プライバシー保護等の内部研修も実施されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の際はお箸で食べられたいのかスプーンで食べられたいのか決めて頂いたり、今日は入浴をされたいのか等自己決定して頂ける様に努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務一辺倒にならない様に「その人らしくあるがままに」の理念に沿った一日を暮らしで頂いている。例えば今日は夜遅くまで入居者の方同士でお話したい方は遅くまでお話しして頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様から本人様がお好きな身だしなみ等をお聞きしその方らしい身だしなみになれる様に努めている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作る際は皆様にも協力して頂いている。例えば野菜を包丁で切られるのが得意な方にして頂いたり他の方は食器洗い等をして頂いている。食事の際は和気あいあいとされながら食べられている。	食材の買い物、調理、盛り付け等の食事の準備、片付けまでのほとんどの過程において、入居者が参加されている。本人の希望があれば、外食に行く支援も実施している。入居者より、特定の銘柄のケーキ、お菓子などのリクエストも多くあり、一緒に買いに行くなど、食事を楽しむことが出来る取り組みを実施している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分を摂られない方には食事形態を工夫したり好みの水分を提供したり、かかりつけ医に相談し支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の方が食後に口腔ケアを出来る範囲でして頂き、最後の磨き直しや痛み等は見られないか観察を行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個別の排泄パターンを把握している。本氏への意思を尊重しながらトイレへの声掛けを行い徐々に失敗される事が減少されている方も見られる。	排泄チェック表は、入居者ごとに細かくできるだけ正確に記録されている。そのデータをもとに「排泄はトイレで」という本人の思いや、羞恥心にも配慮しながら、排泄の自立を目指している。便秘については、薬にたよらず、サツマイモなど食物繊維の摂取や運動、マッサージ等に対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、体操に参加して頂いたりもやい周辺を歩いて頂いたりして体を動かす事によって便秘改善に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がれる方は声掛けの仕方を工夫したり時間をずらして入浴して頂いている。湯船につかれると気持ちよさそうに入られ職員との会話も弾まれている。	毎日風呂を沸かし、2日に1回、午前中に入浴支援をしている。希望があれば、午後や夜間の入浴にも対応可能である。入浴時は気分の良さにつられ、入居者は職員にいろいろな話をされ、入居者の思いやプロフィールを知る良い機会にもなっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜眠れないと訴えが見られる方は就寝されるまでフロアーで好きな映画鑑賞をされたり入居者の方向士でお話しや昔を思い出してダンスをされストレスが溜まらない様に良眠出来る様に支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の方で薬で変更等あった場合は周知ノートにて変更等旨を周知徹底している。また、薬手帳を各職員随時みて把握する様に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	晩酌を楽しみにされている入居者の方ばかりつけ医に相談の上お酒を飲まれている。また、家で日課にされていたほうきで掃いて頂いたりモップ掛けを無理のない範囲でして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の方も声掛けし無理のない範囲で自走してお買い物に行かれ好きなお菓子を買われている。また、足腰の鍛錬も踏まえて近くの坂道を登られ頂上からもやい周辺の景色を眺めて楽しまれている。	縄跳びをしたり、地域のソフトバレーに参加したり、近所にお手伝いに行く入居者もいる。文具店をめぐりたい、潮の香りをかぎたい、夜景が見たい、お月見茶会に行きたい、鴨そばを食べたいなど昼夜にかかわらず、職員、家族、近所の人などの協力も得ながら、外出支援に取り組んでいる。近隣の坂道を上り、高台からの風景を楽しむ方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は本部にてお金を管理させて頂いている。但し、入居者の方やご家族様が希望される際はお金を所持され好きな物を買われている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が希望される際はご家族様へ連絡しお話しされる事で嬉しそうな表情をされている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造で出来ている空間がなぜか昔を懐かしむ様な作りになっている。ベランダから眺める正面にある公園は四季を味あえる。また、小学生の子供達の通学路にもなっており皆様ベランダから子供達に手を振られ笑顔が見られる。	事業所の建物はどことなく懐かしい昭和のにおいを演出して作られている。居間の広い窓から見える公園の風景は、1日の移り変わりと季節の移り変わりが良く見え、入居者が居心地良く暮らせる環境作りの一翼を担っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	笑顔が絶えない環境を提供出来る様にスタッフが間に入って会話が弾む様に工夫している。また、天気の良い日は一人でベランダで日向ぼっこされくつろがれている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前から愛用されている洋服筆筒や仏壇をそのまま施設でも使われている。家具の配置等各々の居室で以前から生活されていた様子が伺える。	入居時に本人と家族で話し合い、居室には本人馴染みの家具、洋服、雑貨、小物などが持ち込まれている。本来の居室の木製の懐かしい雰囲気とよくあい、本人が居心地よく過ごせる安心感が漂っている。居室には畳が使用されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	起床される際はベッド柵を持ってなるべく自分で起きて頂ける様に声掛けしている。また、車椅子の方でトイレを利用される際は手すりを使って立位して頂ける様に工夫している。		